

広田川（矢作川支流）上流の間伐手遅れ林を訪ねる

時：令和5年1月30日（月）午前10：30～

場所：額田郡幸田町大字大草字檀の人工林

幸田町は、東部と南西部に標高100～400mの丘陵地が続き、中央を流れる広田川を中心に盆地状の平野が広がっている。総面積は5,672haであり、うち地域森林計画対象民有林の面積は2,418haで、総面積の42,6%を占め比較的森林に恵まれている。スギ・ヒノキを主体とした人工林の面積は、711haあり、人工林率は29,4%である_____「幸田町森林整備計画」より。

<問題点等>

- ・ 幸田町森林組合は昭和48年頃解散したが、幸田町のように森林組合が無い地域の小規模山主は、木材価格が低下してしまった今、拡大造林政策後の間伐手遅れ林をどう整備すればよいか。
- ・ 豪雨災害が頻発しており、間伐手遅れ林の整備には緊急性がある。
- ・ 木材価格が低迷する中、利用皆伐ないし利用間伐は可能か。皆伐ないし間伐後、林業は成立するか。国は林業についてどのような展望をもっているか。国有林（例えば県下最大の段戸国有林）ではどのような整備が行われているか。
- ・ あいち森と緑づくり事業による切り捨て（伐り置き）間伐は、林業と矛盾していないか。
- ・ 標準伐期（スギ40年、ヒノキ45年）を超えた高齢林の間伐は、通常の間伐に比べ難易度が高く危険な作業であるが、森林整備に関心を持つ山主やボランティアの多くが高齢者である。
- ・ 森林には木材等生産機能の他に、水源涵養機能、土砂災害防止機能/土壌保全機能、快適環境形成機能、保健・レクリエーション機能、文化機能、生物多様性保全機能等多くの公益的機能があるが、その保守保全の責任は山主（所有者）が負わねばならないものか。
- ・ 幸田町でも数年前よりシカが目撃情報が寄せられるようになった。昨年度、

イノシシの檻で子鹿が捕獲された。シカは幼木だけでなくヒノキの根元の皮を食べるので、間伐によりせっかく残した木が枯れてしまう。

<着目点等>

- ・ 山に入る人がほとんどいないため、林道、側溝、作業道などが荒れている。車を取り入れることができず、森林整備や木材搬出に大きな支障がある。
- ・ 山が荒れているため、川も荒れている。
- ・ ところどころで木が倒れている。ただ山に入るのにも危険が伴う。
- ・ ところどころに竹が侵入している。侵入した竹にスギ・ヒノキが負けているところもある。
- ・ 皆伐や間伐の跡（伐り株）があるか。
- ・ 現地下流の光明寺池（今回車を止める場所）は、谷川を堰き止めて作った農業用ため池である。令和3年度から水上ソーラー発電事業が始まったが、豪雨による土砂や間伐材等の流入が心配である。また、ソーラーパネルには有害物質（鉛、セレン、カドミウム、ヒ素など）が含まれていると聞くと、流木等による損傷が心配である。
- ・ 愛知県は、平成18年度に、ため池の多面的機能（農業用水の供給、自然環境の保全（多様な生き物の生息空間）、憩いの場、学習の場、洪水の調節、緊急時の水源、歴史・文化財）を保全するための「愛知県ため池保全構想～未来に伝えよう地域のたから～」を策定している。光明寺池での水上ソーラー発電事業は愛知県ため池保全構想に合うものか。
- ・ かつて幸田町には、中心部に菱池という東西5.4km、南北1.8kmの広大な池があり、大雨時には広田川の自然調整池としての役目を担っていた。菱池は1883年に干拓され、50haの田になった。
しかし、大雨時にその箇所度々浸水被害が発生するため、平成31年から令和8年にかけて、面積24haの遊水地が建設されることになった。

（作成者：現地山主 清水 淳）